

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「絵本を入り口に好奇心を育てる」

～月刊本を通し子ども達の興味関心を広げるとともに、読み聞かせをきっかけに水遊びへの興味を育み、様々な遊びを楽しむ～

月刊本の読み聞かせを通し、虫に興味を持った子がダンゴムシをさがしてみたり、6月の絵本『すうるすうるぴたん』を読んでかたつむりを持って来たりしてくれる子がいた。また10月の絵本『おつきさまとさんぽ』では「お月様って歩いてるとついてくるよね。」「僕、月食みたよ」と月刊本をきっかけに子ども達の興味関心が広がっていった。その中でも4月の絵本『おみずでおえかき』の絵本読むと「すごい！水で絵をかけるの？」「やってみたい！」と、どの子ども達も水で絵を描くことに興味を持った様子だった。実際に活動する中でも「面白い」「冷たい」「キラキラしてる」と水に対するたくさんの声があがったため、この活動を通し、子ども達が水へ親しみをもち様々な水遊びを体験することで水の面白さ、不思議さに気づき主体的に関わろうとする姿を育てたいと思い本テーマを設定した。

<テーマの設定理由>

2. 活動スケジュール

4月『おみずでおえかき』	「水遊び」
5月『わたしのむしとりあみ』	5月水で絵を描く
6月『すうるすうるぴたん』	6月～8月水遊び・プール遊び
7月『なつにみつけたいいものいくつ?』	
8月『むしのへんしん』	
9月『ごりらのぼあちゃん』	9月～色水遊び・砂場で水遊び・泥遊び
10月『おつきさまとさんぽ』	
11月『みんなのかきのみ』	
12月『くんくんすびすび』	
1月『おなじ』	
2月『くるまをあらう』	2月氷作り
3月『つくしがいっぱい』	

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

用意したもの

- ・月刊本(『おみずでおえかき』など)を子どもたちが手に取りやすい場所に配置したり、家庭に持って帰って保護者と一緒に読むことから絵本を通して色々なことに興味・関心が広がるようにする。

- ・ジョウロ、ペットボトル、カップ、バケツ、ベビーバスなど、水を扱うための容器などを複数用意し、子どもが自由に使えるようにする。

- ・プール遊びが出来るように安全に配慮した水遊びの環境を整備する。

- ・色水遊び用にビニール袋や花などの自然物を用意し、色の変化を楽しめるようにする。

- ・砂場にジョウロなどで水をまき、水の量によって砂の感触や、色の違いを感じられるよう環境を整える。

- ・冬には氷作りが出来るよう、カップや容器を準備し、水が氷る変化を体験できるようにする。

- ・月刊本『おみずでおえかき』の読み聞かせを通し、水に興味を持つ姿が見られた。読み聞かせ後には「やってみたい!」とジョウロやペットボトルを使い、地面に水で絵を描く遊びを楽しんだ。

「みて!まるができた。」「わたしハート描くね。」など思い思いに絵を描いていった。水が乾くと消えることに気づき、繰り返し水で描く姿が見られた。

- ・暑くなると容器に水を入れて「みて。いっぱいはいったよ。」と運んだり、穴をあけたペットボトルを組み合わせて水が落ちる様子を観察する遊びへと発展した。プール遊びでは、「冷たい。」「きもちいい。」と水に触れたり、体を動かしたりしながら、全身で水の感触を楽しんでいた。

- ・オシロイバナなどを使って色水遊びを行い、袋の中ですりつぶすことで水の色が変化することに気づき「すごい!色がかかった。」「これはいちごジュースね。」と保育者に対しても「見て」と知らせるなど気づきを伝えようとする関りが見られた。

- ・砂場では水を加えることで砂の感触や色が変わることに気づき「砂が固まった」「さっきと色が違うね。」と水の量を変えながら砂の変化を楽しんでいた。

- ・寒くなると水を使って氷作りを行い、水が凍るという変化を体験し「冷たい!固いね。」「お花の形の氷ができた。」と氷の変化に興味をもって観察する姿がみられた。



4. 振り返り

月刊本をきっかけに、子どもたちの興味や関心が水遊びへと自然に広がっていく様子が見られ、身近な絵本の重要性を改めて感じた。

子ども達は水を「描く」「運ぶ」「撒く」「混ぜる」「凍らせる」といった多様な関わりの中で、水の変化に気づき、繰り返し試しながら遊びを深めていた。子ども達の興味に応じた環境を用意することで、主体的な遊びが広がることを実感した。

さらに季節の変化に応じて遊びを展開することで、子ども達の興味を広げる環境構成や援助を工夫していきたい。